

製本のススメ

Vol. 43

皆様 残暑お見舞い申し上げます。毎日暑いのですが、留まる事ない諸物価値上げには、ゾッとしますね。儲かっているのは、アラブの王様とセレブな投資家達？水戸の黄門様のように、世直しをしてくれる人はいないのかしら。

今回は**修正出来ない不具合**のお話（4回目）

皆さんはA4の紙とB5の紙というように大きさの違う紙と一緒に揃えた事がありますね。その際に、必ず直角になる二方向で紙を揃えるでしょう。これを『紙揃え』と言います。この直角の二方向が印刷の「針・クワエ」にあたります。製本ではこの針・クワエを最も重視して作業が行われます。それは、**製本作業が紙揃えだからです。**

クリーブ（小口側の折ズレ）が不具合だと言うことは前回にもお話しましたが、中綴じ加工では顕著に現れます。中綴じ機械は（殆どの製本会社が）図1のように上から降りてきた折丁はコンベアーに乗って右から左へ折丁が流れていきます。

（ときどき左から右に流れる会社もあるので、加工会社へ確認しましょう）

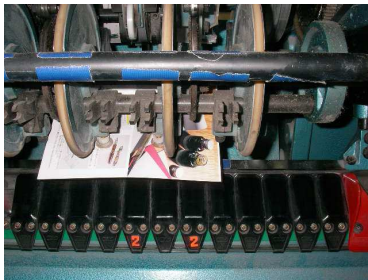


図 1



図 2

ここで重ねられた折丁が、赤い部分によって押し進む間に、紙揃えされ、綴じに入ります

図3のようなクリーブ側で折丁を押し進めても紙揃えになりません。常に袋側（折山側）を揃えて行くことが**見開きやラインをあわせる絶対条件**です。

特に 16 頁折の時には面付けを相談してください

『右開きの本は天袋・左開きの本はケシタ袋』

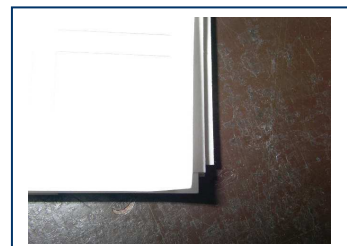


図 3



Tea break

国内では幕末に初めて醸造されたと言われているビール(でも定かでは有りません)当初は在日外国人向けとして主に輸入されていましたが、その味が日本人の味覚に合い、明治5年には近代工業として工場生産が始まり、明治9年には北海道で官営のビール工場も出来るほどの人気ぶり！国民的飲料となりました。夏はやっぱり、冷えたビールですね。

by (株) 井関製本